



夏休み作品展

子どもたちの夏休みの成果の一つが、夏休み期間中に取り組んだ作品だと思います。調査・研究、工作、絵画・ポスター、書写等々、作品への取り組み方は様々です。

子どもたちの作品を見ていると、夏休みの多くの時間を割いて取り組んだのだろうなあと思われるもの、目のつけどころがいいなあと思うもの、ちょっと切羽詰まって始めたかなと思ってしまうものなど様々で、作品の一つ一つに取り組んだ子の夏休みが垣間見えます。

子どもたちの中には「夏休みの作品制作がなかったらいいのになあ」と思っている子もいるかもしれません。しかし、自分で計画し、創造力や想像力を働かせ、創意工夫をして形あるものを生み出す経験は、社会を担う一人となった時、未知の世界を切り拓く力の源になるのではないかと思います。

夏を振り返って

今年の夏休みを私なりに振り返ってみると…

- ・ 今年も全国的に水の事故の報道が多くありました。ただ中には高い所から川や海に飛び込んだがために事故になっているようなケースもありました。
⇒事故の中には防げたものもあり、事故を対岸の火事としない心がけが必要だと思います。
- ・ 連日の猛暑で、気温が 40℃を超える地点もありました。
⇒4 月頃から 10 月頃まで熱中症への対策・対応を考える必要がある気候となっていると感じます。気候の変化に応じた学校生活も必要かと思っています。
- ・ 野生のクマによる被害が相次いでいます。
⇒多良山系にはクマの生息はないと聞いていますが、野生のイノシシやサルを目撃情報は身近にあります。人里に野生の生き物が出没する自然環境になっているような感じがします。
- ・ 変化する高校野球
⇒暑さ対策から試合時刻を朝夕に分ける 2 部制や試合途中に休憩を挟むクーリングタイムの導入など 100 年を超える歴史の中にあっても時代に即した取組が取り入れられました。それでも球児のプレーが色あせることはなかったと感じます。